

文書番号	EKK91
主管部門	環境管理事務局

# 環境経営レポート

(2022年4月～2023年3月)

発行日：2023年8月2日

承認	審査	作成
		

小松ばね工業株式会社

## 1. 組織の概略及び認証登録範囲

### 1) あらまし

弊社の発祥は昭和16年、現在の本社（東京都大田区）所在地に於いて創業者小松謙一が、ばね工場小松製作所を創立いたしました。以来、一貫してスプリング及びゼンマイ等の設計製作に努め、技術の開発に創意を発揮し、現在精密ばねの分野では業界有数の専門メーカーとしての地位を占めるに至り、今日の精密機器産業部門の一翼を担っております。

創業当初は、主にカメラシャッター用の精密ばねの専門工場として発展して参りましたが、各界の要望に応じて、時計用・電気機器用・通信機器用・OA機器用・自動車部品用・その他精密機器用ばねの部門にも漸次販路を広め、その技術も一段と幅広くなり、特に超精密ばねの技術においては、他の追随を許さないものと誇りを持っております。

当社の製品は、独特な着想と技術による当社特製の成形機をはじめ、日・独・仏・米製のコイルリングマシン、フォーミングマシン及び検査機器の最新機種をそろえた設備と熟練の技術スタッフにより、納期の厳守、新製品の開発、生産の合理化、品質の均一化、精度の正確さに合わせて、コストの低減を図っておりますので、国内のユーザーの皆様は勿論、世界のユーザーの皆様にも必ずご満足いただけるものと存じます。

当社の従業員は「秀でた技術で社会に貢献する」の理念を体して、絶えざる努力と研鑽により、国際産業に奉仕することが、我社の発展につながることを確信して今日に至っております。

### 2) 会社概要

商号： 小松ばね工業株式会社  
創業年月日： 1941年（昭和16年）5月23日  
会社設立： 1952年（昭和27年）12月1日  
資本金： 払込 1億円  
本社： 東京都大田区大森南5丁目3番18号  
代表者： 代表取締役社長 小松万希子  
従業員： 77名  
製造品目： 精密ばね



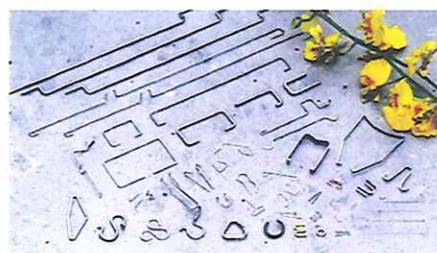
圧縮コイルスプリング



引張コイルスプリング



トーションスプリング



ワイヤーフォーミング

### 3) 対象事業所

①事業所名： 本社及び本社工場

環境部門： 環境管理責任者 代：小松節子（会長）  
環境管理担当者 平石雅人（管理課）

住 所： 東京都大田区大森南5丁目3番18号

電 話： 03-3743-0231 F A X： 03-3743-0235 E-mail： qc@komatsubane.com

②事業所名： 大河原工場

環境部門： 環境管理責任者 会田 仁（工場長）  
環境管理担当者 小宮新一（管理係）

住 所： 宮城県柴田郡大河原町字甲子町1-1

電 話： 0224-51-5100 F A X： 0224-51-5115 E-mail： funaqc@komatsubane.com

③事業所名： 秋田太田町工場

環境部門： 環境管理責任者 渡辺和知（工場長）  
総括環境管理責任者・環境管理事務局長 柳田 勉（副工場長）

住 所： 秋田県大仙市太田町齊内字北開182-4

電 話： 0187-88-2101 F A X： 0187-88-2103 E-mail： akiqc@komatsubane.com



本社第1工場



本社第3工場



大河原工場



秋田太田町工場

4) 事業活動規模 (2022年度) 3事業所合計

項目	生産量	生産高	従業員数	床面積	敷地面積
単位	万個	百万円	人	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
活動規模	49,700	743	77	6,448	22,608

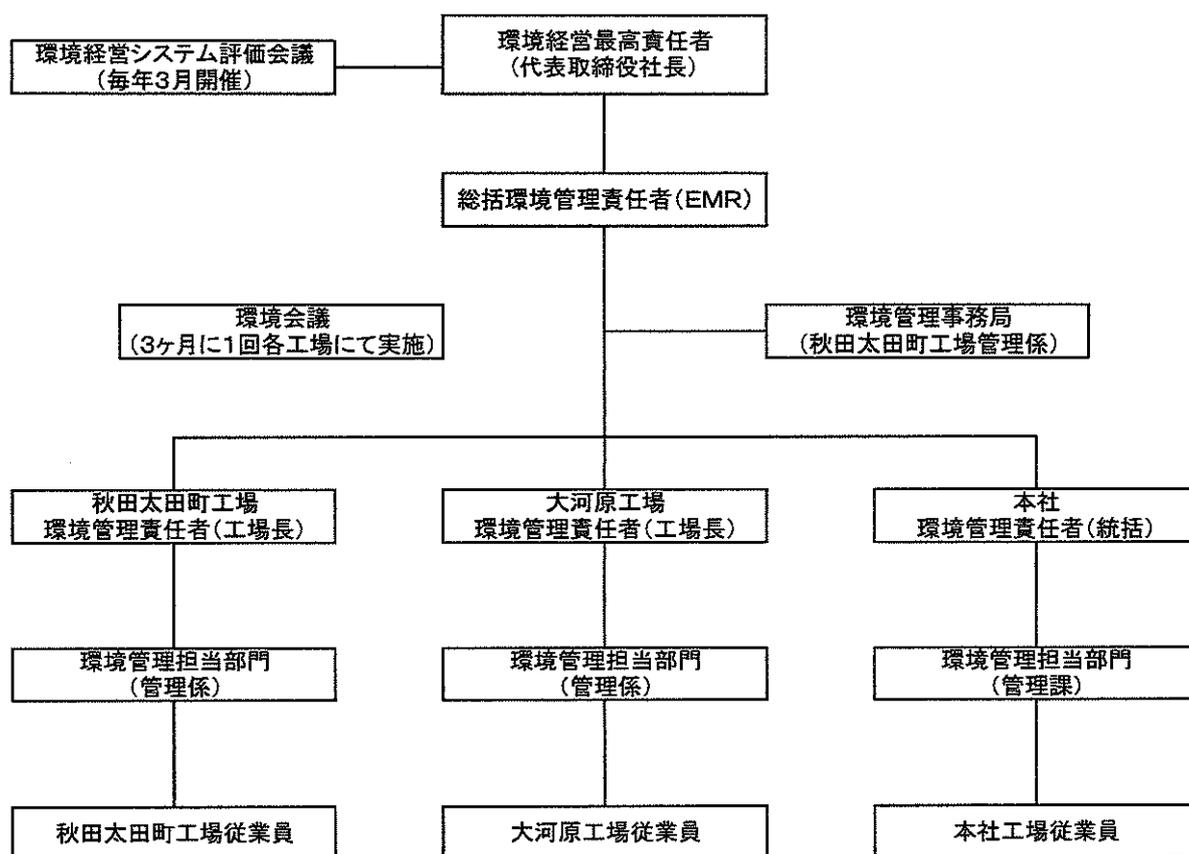
事業所別規模 (2022・3月現在)

項目	単位	本社・本社工場	大河原工場	秋田太田町工場
従業員数	人	22	26	29
床面積	m <sup>2</sup>	2,144	2,079	2,225
敷地面積	m <sup>2</sup>	1,694	6,555	14,359

5) 「環境経営システムの運用組織図」

小松ばね工業㈱  
環境経営システムの運用組織図

2022年7月22日現在



## 6) 役割と権限

階層	役割と権限
代表取締役社長 (環境経営 最高責任者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。</li> <li>・総括環境管理責任者、各工場の環境管理責任者を任命する。</li> <li>・環境経営システムの構築・運用・維持に必要な資源を準備する。</li> <li>・環境経営方針に関する基本方針を制定し、環境経営マニュアル、環境経営目標、環境経営計画を承認する。</li> <li>・環境経営システムに関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要な指示を行う。</li> </ul>
総括環境管理 責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの総括管理責任者</li> <li>・環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的運用を図り、目的を達成するために、各工場で「環境会議」を実施する。</li> <li>・環境経営システムの構築と運用を円滑に行い、環境経営システム評価会議による全体の評価と見直しのための情報として、環境経営システムの構築・運用に関する情報を社長に提供する。</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの工場管理責任者</li> <li>・環境経営に関する工場の経営諸資源の合理的・効果的運用を図る。</li> <li>・環境経営システムの構築に協力・運用し、環境経営システム評価会議による全体の評価と見直しのための情報として、環境経営システムの構築・運用に関する情報を社長及び総括環境管理責任者に提供する。</li> </ul>
部門長・所属長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理範囲内に於て、環境経営システムの運用及び管理の責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社方針を理解して、環境経営システムに基づき積極的に行動する。</li> </ul> <p>詳細は環境経営マニュアルに記載</p>

## 2. 認証・登録範囲

1) 全社、全事業

2) エコアクション21の活動経過

今回の「環境活動レポート」の目標と実績は2022年4月から2023年3月までの12ヶ月間を対象にして報告しています。

### 3. 環境経営方針

## 「環境経営方針」

### 1. 企業理念 「お客様に必要とされる」

我々が永遠であるためには、お客様に強く必要とされ続けなければならない。いかなる環境でも、より優れた技術でより優れた「ばね」をつくることで、我々は企業を通じて社会に貢献する。

エコアクション21の理念を基に「地球との共生」を考え、当社の全ての業務にかかわる環境影響を明確にし、環境に優しい企業活動を目指す。

2. 環境経営を通じてより良い進化した組織へ成長するために、今後の経営における課題（組織の外部、内部）とチャンスを整理し、課題を克服する事で、事業発展の機会になる。事業内容、事業を取り巻く状況、事業と環境のかかわりによって変化する課題とチャンスに必要な応じて見直しをする。

3. 企業理念、事業活動における環境への負荷を整合させ、取り組むべき重点分野を特定する。

- 1) 電力、ガス、ガソリンの削減による、CO<sub>2</sub>の排出抑制
- 2) 廃棄物の分別・リサイクル、紙の削減による、廃棄物の排出抑制
- 3) 節水などによる、水使用量の削減
- 4) 化学物質使用量の削減
- 5) 原材料の効率的な使用による、製造廃棄物の削減
- 6) グリーン調達推進
- 7) 製品含有化学物質を把握し、含有、使用の禁止

4. 環境経営の活動を通じて環境目標、環境計画の継続的改善に努め、環境経営のステップアップを図る。

5. 環境関連法規の遵守を誓約する。

6. 全従業員へ環境経営方針の内容を理解し、取り組むことが出来るよう掲示や会議、朝礼などを活用して周知する。

2018年 7月30日  
小松ばね工業株式会社  
代表取締役社長  
小松 万希子

#### 4. 環境経営目標

No.	区分	環境経営目標	事業所	2020年度実績 (基準年)	2021年度目標 (前年度比)	2022年度目標 (前年度比)	2023年度目標 (前年度比)
1	OUTPUT	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電力・ガソリン・ガス・灯油)	本社	71,070	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	148,496	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	251,339	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	470,905	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
1-1	INPUT	電力使用量 (kWh)	本社	141,352	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	251,140	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	427,190	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	819,682	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
1-2	INPUT	ガソリン使用量 (L)	本社	1,003	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	3,203	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	2,855	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	7,060	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
1-3	INPUT	ガス使用量 (m <sup>3</sup> )	本社	1,592	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	109	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	150	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	1,851	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
2	INPUT	水使用量 (m <sup>3</sup> )	本社	366	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	1,162	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	4,531	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	6,059	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
3	OUTPUT	ごみ排出量 (kg)	本社	768	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	772	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	528	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	2,068	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
4	OUTPUT	金属廃棄物排出量 (kg)	本社	1,198	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	3,541	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	2,789	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	7,528	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
5	INPUT	塩素系洗浄液使用量 (kg)	本社	575	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	500	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	1,450	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	2,525	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
6	OUTPUT	規制化学物質 含有混入 (件)	本社	0	0件	0件	0件
			大河原	0	0件	0件	0件
			秋田	0	0件	0件	0件
			全社	0	0件	0件	0件
7	INPUT	グリーン調達件数 (%)	本社	27.9	0.5%増	0.5%増	0.5%増
			大河原	32.7	0.5%増	0.5%増	0.5%増
			秋田	53.0	0.5%増	0.5%増	0.5%増
			全社	37.9	0.5%以上増	0.5%以上増	0.5%以上増

二酸化炭素調整後排出係数 東京電力エネルギーパートナー(株) : 0.462  
 東北電力(株) : 0.559

## 5. 環境経営計画と実施状況

項目		活動の内容
二酸化炭素排出量	電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用していない場所の消灯を徹底する。</li> <li>・LED 照明器具の導入をした。</li> <li>・空調の室内温度夏季28度、冬季22度とする。</li> <li>・朝の涼しい時間帯から設備を起動し、分散起動することで立ち上げによるピーク電力上昇を抑制する。</li> <li>・コンプレッサーの運転効率化をはかる。</li> <li>・電気炉の運転効率化をはかる。</li> <li>・製品歩留りを上げる。</li> </ul>
	ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社用車の運転効率化をはかる。</li> <li>・アイドリングストップの励行。</li> <li>・社用車をエコカーに変更した。(本社：1台電気自動車導入)</li> </ul>
	ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス炉の使用時間を調整して、運転時間短縮を行なう。</li> </ul>
水使用量	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水コマを設置し、手洗い水を削減する。</li> <li>・洗浄機、真空炉の不要な稼働を削減して冷却水の節水を徹底する。</li> </ul>
廃棄物排出量	ごみ排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般廃棄物、資源ゴミ、産業廃棄物に分別し、再資源化を推進する。</li> <li>・コピー用紙を有効活用し、新聞紙・ダンボール等の梱包材は再利用を行なう。</li> </ul>
	金属廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属リサイクル100%にする。</li> </ul>
化学物質使用量	塩素系洗浄液使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗浄レス品の推進 ・代替溶剤について検討を行う。</li> <li>・炭化水素による洗浄を推進する。</li> <li>・洗浄機未使用時、蓋をして蒸発を防ぐことを徹底する。</li> </ul>
製品含有化学物質	製品含有化学物質の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規制化学物質含有の混入0件の維持</li> <li>・必要に応じてSDS及び分析データの入手</li> <li>・製品含有化学物質管理について内部監査を行なう。</li> <li>・半年毎のchemSHERPA改訂の内容を理解して適切に対応する。</li> </ul>
その他	環境経営システムの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務遂行に必要な手順を文書化する。</li> <li>・適宜、文書・記録の見直しを行なう。</li> </ul>
	環境保全意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削減目標値、節電、節水等の具体的な表示を行い、節約意識を高める。</li> <li>・全従業員へ環境教育を実施する。</li> <li>・工場周辺の清掃活動を行なう。</li> </ul>
	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン調達の推進</li> </ul>

6. 主な環境経営目標と活動の取組結果の評価と次年度の取組内容

2022年度 環境経営目標実績

No.	区分	環境経営目標	事業所	2021年度実績 (前年度)	2022年度目標 0.5%以上削減	2022年度実績	削減率	評価
1	OUTPUT	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電力・ガソリン・ガス)	本社	71,637	71,279	67,668	-5.5	○
			大河原	189,439	188,491	154,904	-18.2	○
			秋田	260,465	259,163	208,670	-19.9	○
			全社	521,541	518,933	431,242	-17.3	○
1-1	INPUT	電力使用量 (kWh)	本社	138,468	137,776	134,616	-2.8	○
			大河原	275,127	273,751	264,682	-3.8	○
			秋田	443,920	441,700	358,897	-19.2	○
			全社	857,515	853,227	758,195	-11.6	○
1-2	INPUT	ガソリン使用量 (L)	本社	1,749	1,740	1,520	-13.1	○
			大河原	3,029	3,014	2,834	-6.4	○
			秋田	2,713	2,699	2,526	-6.9	○
			全社	7,491	7,454	6,880	-8.2	○
1-3	INPUT	ガス使用量 (m <sup>3</sup> )	本社	980	975	902	-8.0	○
			大河原	107	106	59	-44.5	○
			秋田	167.4	166.6	151.3	-9.6	○
			全社	1,254	1,248	1,113	-11.3	○
2	INPUT	水使用量 (m <sup>3</sup> )	本社	302	300	371	22.8	×
			大河原	1,149	1,143	782	-31.9	○
			秋田	4,700	4,677	4,855	3.3	×
			全社	6,151	6,120	6,008	-2.3	○
3	OUTPUT	ごみ排出量 (kg)	本社	629	626	701	11.4	×
			大河原	759	755	740	-2.4	○
			秋田	533	530	537	0.8	×
			全社	1,920	1,911	1,978	3.0	×
4	OUTPUT	金属廃棄物排出量 (kg)	本社	532	529	1,363	156.2	×
			大河原	3,119	3,103	2,731	-12.4	○
			秋田	2,453	2,441	2,926	19.3	×
			全社	6,104	6,073	7,020	15.0	×
5	INPUT	塩素系洗浄液使用量 (kg)	本社	625	622	700	12.0	×
			大河原	625	622	375	-40.0	○
			秋田	1,450	1,443	1,550	6.9	×
			全社	2,700	2,687	2,625	-2.8	○
6	INPUT	規制化学物質 含有混入 (件)	本社	0	0	0	0	○
			大河原	0	0	0	0	○
			秋田	0	0	0	0	○
			全社	0	0	0	0	○
7	INPUT	グリーン調達件数 (0.5%増)	本社	9.2	9.7	10.9	1.7	○
			大河原	42.3	42.5	48.2	5.9	○
			秋田	51.0	51.3	48.0	-3.0	×
			全社	34.2	34.5	35.7	1.5	○

二酸化炭素調整後排出係数 東京電力エナジーパートナー(株) : 0.462

東北電力(株) : 0.559

削減率 = (当年度実績 / 前年度実 - 1) × 100

## 2022年度環境経営評価書

小松ばね工業㈱ 本社工場	
承認	作成
2023年6月30日	2023年6月30日
小松	平石

No.	推進項目	年度目標	結果確認 (担当者)	評価	達成の要因/未達成の原因 (環境管理責任者)	未達成の場合の是正処置と次年度取組内容
1	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電気・ガソリン・ガス・灯油)	前年度0.5%削減 71,637.16kg-CO2 ↓ 71,278.97kg-CO2	67,668.47kg-CO2 前年比5.5%減少	○	全社員が削減意識を持って活動した結果、達成したと判断する。	従来 of 活動内容(p7参照)を継続する。
2	水資源投入量 (m <sup>3</sup> )	前年度0.5%削減 302m <sup>3</sup> ↓ 300m <sup>3</sup>	371m <sup>3</sup> 前年比22.8%増加	×	旧第二工場解体工事に伴い、工事業者の水使用があったため増加した。	従来 of 活動内容(p7参照)を継続する。原因が生産活動に付随する事項ではないため、是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。
3	ごみの排出量 (kg)	前年度0.5%削減 629kg ↓ 626kg	701kg 前年比11.5%増加	×	旧第二工場解体工事に伴い、不用物を廃棄したため排出量が増加した。	従来 of 活動内容(p7参照)を継続する。原因が生産活動に付随する事項ではないため、是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。
4	金属廃棄物排出量 (kg)	前年度0.5%削減 532kg ↓ 529kg	1,363kg 前年比156.2%増加	×	旧第二工場解体工事に伴い、不用物を廃棄したため排出量が増加した。	従来 of 活動内容(p7参照)を継続する。平年と比較すると同等の廃棄量であるため、是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。
5	塩素系洗浄液使用量 (kg)	前年度0.5%削減 625kg ↓ 622kg	700kg 前年比12.0%増加	×	槽清掃の回数が多かったため増加してしまった。	従来 of 活動内容(p7参照)を継続する。
6	製品含有化学物質 (件)	0件の維持 0件 ↓ 0件	0件 前年度同様	○	製品含有化学物質の問題ないものを使用した。	従来 of 活動内容(p7参照)を継続する。
7	グリーン調達	前年度0.5%増 9.2% ↓ 9.7%	10.9% 前年比1.7Pt増加	○	エコマーク付きの商品の購入を増やした。	従来 of 活動内容(p7参照)を継続する。

※注 環境経営目標未達の原因が、業務上優先される事由に因る場合、是正処置票の発行は行わないものとする。

## 2022年度環境経営評価書

小松ばね工業㈱ 大河原工場	
承認	作成
2023年5月26日	2023年5月26日
金田	小宮

No.	推進項目	年度目標	結果確認 (担当者)	評価	達成の要因/未達成の原因 (環境管理責任者)	未達成の場合の是正処置と次年度取組内容
1	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電気・ガソリン・ガス)	前年度0.5%以上削減 189,439kg-CO2 ↓ 188,492kg-CO2	154,904kg-CO2 前年比18.2%減	○	2021年度と比べて受注量が少なかったため、機械稼働時間の減少が大きな要因と判断する。	従来 of 活動内容(P7参照)を継続する。
2	水資源投入量 (m <sup>3</sup> )	前年度0.5%以上削減 1,149.0m <sup>3</sup> ↓ 1,143.3m <sup>3</sup>	782.0m <sup>3</sup> 前年比31.9%減	○	使用量削減を意識して取り組んだ結果、達成出来たと判断する。	従来 of 活動内容(P7参照)を継続する。
3	ごみの排出量 (kg)	前年度0.5%以上削減 758.7kg ↓ 754.9kg	740.2kg 前年比2.4%減	○	排出量削減を意識して取り組んだ結果、達成出来たと判断する。	従来 of 活動内容(P7参照)を継続する。
4	金属廃棄物排出量 (kg)	前年度0.5%以上削減 3,118.8kg ↓ 3,103.2kg	2,730.6kg 前年比12.4%減	○	排出量削減を意識して取り組んだ結果、達成出来たと判断する。	従来 of 活動内容(P7参照)を継続する。
5	塩素系洗浄液使用量 (kg)	前年度0.5%以上削減 625.0kg ↓ 621.9kg	375kg 前年比40.0%減	○	使用量削減を意識して取り組んだ結果、達成出来たと判断する。	従来 of 活動内容(P7参照)を継続する。
6	製品含有化学物質 (件)	0件	0件 前年と同じ	○	製品含有化学物質の問題ないものを使用した。	従来 of 活動内容(P7参照)を継続する。
7	グリーン調達	前年度0.5%増 42.3% ↓ 42.5%	48.2% 前年比5.9%増	○	エコマーク付きの商品の購入を増やした。	従来 of 活動内容(P7参照)を継続する。

※注 環境経営目標未達の原因が業務上優先される事由に因る場合、是正処置票の発行は行わないものとする。

## 2022年度環境経営評価書

小松ばね工業㈱ 秋田太田町工場

承認	作成
2022年6月23日	2022年6月23日
渡辺	柳田

No.	推進項目	年度目標	結果確認 (担当者)	評価	達成の要因/未達成の原因 (環境管理責任者)	未達成の場合の是正処置と次年度取組内容
1	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電気・ガソリン・ガス・灯油)	前年度0.5%削減 260,465kg-CO2 ↓ 259,163kg-CO2	208,670kg-CO2 前年比19.9%減	○	コンプレッサー配管工事をして、1台稼働を推進したことにより電気使用量が削減した。	従来 of 活動内容 (P7参照) を継続する。
2	水使用量 (m <sup>3</sup> )	前年度0.5%削減 4,700m <sup>3</sup> ↓ 4,677m <sup>3</sup>	4,855m <sup>3</sup> 前年比3.3%増	×	洗浄機の運転時間が効率的でないため洗浄機の冷却水無駄に使用された。	洗浄機の運転時間を終業1時間前に停止する。
3	ごみの排出量 (kg)	前年度0.5%削減 533kg ↓ 530kg	537kg 前年比0.8%増	×	資源ごみと一般ごみの分別が確実に行なわれた。購入品等の梱包材の処理で多少増加してしまった。	微増の為、従来 of 活動内容 (p7参照) の管理を強化して継続する。
4	金属廃棄物排出量 (kg)	前年度0.5%削減 2,453kg ↓ 2,441kg	2,926kg 前年比19.3%増	×	不要となった材料の処分が増加の要因となった。	従来 of 活動内容 (p7参照) を継続する。是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。
5	塩素系洗浄液使用量 (kg)	前年度0.5%削減 1,450kg ↓ 1,443kg	1,550kg 前年比6.9%増	×	洗浄機の運転時間が効率的でないため洗浄液の無駄な揮発が多いと思われる。	洗浄機の運転時間を終業1時間前に停止する。
6	製品含有化学物質 (件)	0件の維持 0件 ↓ 0件	0件 前年と同じ	○	製品含有化学物質の問題の無い事を確認している。	従来 of 活動内容 (P7参照) を継続する。
7	グリーン調達件数 (%)	前年度0.5%増 51.0% ↓ 51.3%	48.0% 前年比3.0%減	×	単価を考慮して、購入したためエコマーク品が増えなかった。	今後も購入条件は単価を最優先と考えるが、同条件であれば、グリーン調達に合致する商品の購入を推進する。是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。

※注 環境経営目標未達の原因が、業務上優先される事由に因る場合、是正処置票の発行は行わないものとする。

3工場全体での環境目標は、ごみ排出量と金属廃棄物排出量の2項目で目標を達成することが出来ませんでした。本社旧第二工場解体に伴い不用物の廃棄が多くなったことによるものです。二酸化炭素排出量は急激に減少しました。昨年よりも受注量減少の影響で生産活動が停滞したことが要因ですが、秋田太田町工場ではコンプレッサーの配管工事をして、1台稼働を推進したことが大きかったと考えます。

また、「EA21ガイドライン 2017年度版」に準じた、環境経営マニュアル及び手順書に従い環境経営活動を行なう事ができました。

### 7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境関連法規	遵守評価留意点	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出、排出基準検査	○
下水道法	施設定期点検、水質の測定検査	○
浄化槽法	浄化槽定期点検、浄化槽法定検査	○
廃棄物処理法	処理業者との契約、保管場所における適切な保管管理	○
PRTR法	第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出	○
消防法	消防施設の点検	○

環境関連法規等遵守状況の評価の結果、環境関連法規等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局により違反等の指摘及び訴訟については過去3年間ありません。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2022年度EA21実施結果と代表者の見直しと指示

IN	レビュー項目	内容	効果の確認、報告事項																																	
1	環境経営システムの推進	3工場ともに問題は発生していない。																																		
2	文書・記録の制定、改廃	「EKS102 製品含有化学物質管理購買手順書」を廃版して「EKS103 製品含有化学物質管理手順書」と統合した。版数3版	統合することにより明瞭になった。																																	
3	環境目標の達成状況 (3工場全体)	目標: 前年度対比0.5%以上削減 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>環境目標</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CO2排出量</td> <td>-17.3%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>電気使用量</td> <td>-11.6%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ガソリン使用量</td> <td>-8.2%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ガス使用量</td> <td>-11.3%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>水資源</td> <td>-2.3%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ごみ排出量</td> <td>+3%</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>金属廃棄物排出量</td> <td>+15.0%</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>塩素系洗浄剤</td> <td>-2.8%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>製品含有化学物質</td> <td>0件</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>グリーン調達(0.5%以上増)</td> <td>+1.5%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	環境目標	削減率	評価	CO2排出量	-17.3%	○	電気使用量	-11.6%	○	ガソリン使用量	-8.2%	○	ガス使用量	-11.3%	○	水資源	-2.3%	○	ごみ排出量	+3%	×	金属廃棄物排出量	+15.0%	×	塩素系洗浄剤	-2.8%	○	製品含有化学物質	0件	○	グリーン調達(0.5%以上増)	+1.5%	○	3工場全体での環境目標は、ごみ排出量と金属廃棄物排出量の2項目で目標を達成することが出来ませんでした。本社旧第二工場解体に伴い不用物の廃棄が多くなったことによるものです。 二酸化炭素排出量は急激に減少しました。昨年よりも受注量減少の影響で生産活動が停滞したことが要因ですが、秋田太田町工場ではコンプレッサーの配管工事をして、1台稼働を推進したことが大きかったと考えます。
環境目標	削減率	評価																																		
CO2排出量	-17.3%	○																																		
電気使用量	-11.6%	○																																		
ガソリン使用量	-8.2%	○																																		
ガス使用量	-11.3%	○																																		
水資源	-2.3%	○																																		
ごみ排出量	+3%	×																																		
金属廃棄物排出量	+15.0%	×																																		
塩素系洗浄剤	-2.8%	○																																		
製品含有化学物質	0件	○																																		
グリーン調達(0.5%以上増)	+1.5%	○																																		
4	改善提案	改善提案はなし																																		
5	是正処置、予防処置	2021年度に対する2022年度当初の是正処置票の発行はありません。 再発している問題はありません。																																		
6	環境関連法規等の遵守状況	「環境関連法規など登録一覧表/遵守評価表」に追加法規はなかった。																																		
7	外部環境審査の結果	更新審査による推奨: 3件あり各件につき対応策を決定した。	不適合はなくガイドラインに適合の評価を得た。																																	
8	外部利害関係者からの苦情要望	苦情要望はなかった。																																		
9	前回の環境経営システム評価会議における指示事項の実施状況	2021年度、ごみ排出量、金属廃棄物排出量の削減で評価を得ましたが、2022年度は、ごみ排出量、金属廃棄物排出量とも増加してしまいました。本社旧第二工場解体に伴い不用物の廃棄が多くなったことによるものです。 電気使用量削減については、昨年よりも受注量減少の影響で生産活動が停滞したことが要因ですが、秋田太田町工場ではコンプレッサーの配管工事をして、1台稼働を推進したことが大きかったと考えます。																																		
10	その他	-																																		

O U T	代表者による見直し	項目	変更の要否	
		環境経営方針	要	否
		環境経営目標	要	否
		環境経営計画	要	否
		実施体制	要	否
	コメント	全工場で電気炉の運転時間を見直したことについて評価します。		